



第405号  
2023年8月号  
(2023年7月30日発行)  
カトリック和泉教会

Where is your hope and peace?

Talking about peace, pope Francis invites each one of us to think about this: Where is your hope and peace? First of all, Pope Francis calls to our mind about our realities. Sadness: people talking to themselves, people walking alone with their phones, but without peace and hope. Suicide: how many young people do not tolerate their own wounds and look for a way of salvation in suicide. War: how many people who have continued to endure the war. However, we are wounded. We are often hidden wounds we hide out of embarrassment. Think about your wounds, the ones you alone know about, that everyone has hidden in their heart.

Pope Francis reminds us to look at the crucifix. And what do we see? We see Jesus naked, Jesus stripped, Jesus wounded, Jesus tormented. Is it the end of everything? That is where our hope is. The cross, which first seems a sign of defeat, proves instead to be the tree of life and the source of undying hope. Our contemplation of the crucified Jesus, invites us to strip ourselves of false illusions, to acknowledge the truth about ourselves, and to find healing and the possibility of a new beginning. In Jesus' wounds, we can see our own; in his obedience to the Father's will and his forgiveness of those who crucified him, he shows the victory of God's love and offers us the hope of interior renewal and redemption.

Think about this: What can I do for others? I am wounded. I am wounded by sin, I am wounded by my past, everyone has their own wound. What do I do? Do I hide my wounds for the rest of my life? Or do I look at the wounds others have and go with the wounded experience of my life to heal, to help others? This is today's challenge for all of you, for each of you, for each one of us. In this month of peace, let us draw near to the Lord and place our hope in the power of his cross to turn evil into good, and suffering into a generous love of others.

あなたの希望と平和はどこにありますか？

いずみブロック司祭チーム

平和について教皇フランシスコは、私たち一人ひとりにこう呼びかけている：あなた

の希望と平和はどこにありますか？教皇は私たちの現実を思い起こすよう呼びかけます。

悲しみ：いくら立派な生活を送っても、寂しさを感ずるし、平和や希望もない。

自殺：自分の傷に耐えられず、自殺の道を求める若者がどれほど多いでしょうか。

戦争：戦争に耐え続けている人のなんと多いことでしょう。

なんとなく、私たちは様々な形で傷ついているかもしれません。恥ずかしさから隠して

いる傷も多いです。その時点で自分だけが知っているのではなく、誰もが心に隠している傷

について考えてみてくださいと思い起こされる。

教皇フランシスコは、この大変さの中にあるわたしたちに十字架を見るように

思い出させてください。私たちは何を見るのでしょうか？裸にされたイエス、傷ついた

イエス、苦しめられるイエスが見えます。それはすべての終わりなのでしょうか？その

十字架に私たちの希望と平和があります。最初は敗北のしるしと思われた十字架は、実は

命の木であり、不滅の希望の源であることを証明します。十字架につけられたイエス

を黙想することは、私たち自身を偽りの幻想から解放し、自分自身の真実を認め、癒し

と新たな始まりの可能性を見出すよう私たちを誘います。イエスの傷に、私たちは自分

自身を見ることが出来ます。御父の御心への従順と、イエスを十字架につけた人々への

赦しにおいて、イエスは神の愛の勝利を示し、私たちに内的刷新と贖いの希望を与えてく

ださるので。

平和旬間にあたり、自分の心で考えてみましょう：自分自身は罪や弱さなどによって

傷つき、そして、誰にでもそれぞれの傷があると気づきに対して、私はどうすればいいの

でしょうか？私は他人のために何が出来るだろうか？自分の傷を一生隠すのか？それと

も、他の人が持っている傷に目を向け、自分の人生の傷ついた経験とともに、他人を

癒し、助けるために進むのか？これが、わたしたちみんな一人ひとりへの今日の挑戦で

す。この平和の月に、主に近づき、悪を善に変え、苦しみを他者への惜しみない愛に

変える主の十字架の力に希望を託しましょう。

★ - △ - ● - □ - α - β - γ - θ - δ - ε - ω



### 教皇フランシスコメッセージ

#### 「コロナの世界を生きる」抜粋（15） 第三部 行動するとき（3）



私か語る「民の尊厳」とは、民の「魂」から

湧き上がる認識、世の中に対する見方を指します。それはどこから生まれるのでしょうか？

民の富、あるいは戦争での勝利から生じるのでしょうか？そうした業績はおごり、さらに

は高慢さの温床となりかねません。しかしたとえ貧しく、哀れで、虐げられていようと、

民の尊厳は神との親密さから生まれてきます。民に尊厳をもたらし、彼らに希望を与えて

立ち上がらせるのは、神の愛と親密さなのです。

聖書には、それを示す物語が繰り返し登場します。神はモーセに呼びかけることで、

自らの親密さを示し、永遠の愛を約束されました。そしてアブラハムに啓示を与えること

で、民と共に歩かれることを約束されました。そして神の献身に気づいたユダヤの民は

自らの尊厳を意識しつつ、前進することができました。その結果、強い国を築き、気高い

魂を獲得することができたのです。しかしイスラエルがその認識を見失い、親密さの証

である主の掟を捨てたとき、彼らは分裂と不正に陥ります。

聖パウロはイエス・キリストへの信仰についての説明を求められた際、神が民に

寄り添ってこられた歴史について語りました（使徒言行録13：13～21）。

イエスはユダヤの民の恵みと約束、そして贖罪の歴史の申し子です。それは、神が

現れ、近づいて共に歩んで下さったが故に自らの尊厳に気づき、自由を求めた民の物語で

す。イエスは、イスラエルを復活させ、約束された尊厳を民に取り返すために

現れました。

イエスは、神の親密さを行動と言葉で表すことで、民に尊厳を取り戻させました。自分

一人だけで救われるということはあり得ません。孤立は、私たちの信条には

含まれません。

つまり、クリスチャンになるということは自分が民の一員であることを知ることなので

す。危機の際に教会が果たすべき役割があるとしたら、民にその魂と、共通善を

尊重することの必要性を思い出させることです。それこそ、イエスがなされたことでし

た。イエスがやってきたのは、民と神、そして民同士の結びつきを強め、深めるためです

た。だからこそ、神の王国で最も重要な人は、自らを低くし、他者、特に貧しい人々に

仕える人なのです。（マタイによる福音書20:26～27）

クリスチャンにとっての揺るぎない軸となるのは、「ケリグマ」と呼ばれる宣教です。

これは、神は私を愛し、私のために自らを差し出されたという意味です。イエス・キリ

ストの死と復活、そして十字架上で示された愛が私たちが宣教の徒として

呼び集めました。そして、自分たちが人類という家族の中の、特に孤独を感じている人の

兄弟姉妹であることを気づかせてくれました。山上の説教や「マタイによる福音書

第25章」で示されているように、救済の本質は私たちが示す思いやりによって

満たされるのです。

だからこそ教会は、常に尊厳と自由のために闘う民に寄り添わなくてははいけません。そ

れぞれの文化における民、特に貧しい人々の苦しみや希望を、我が事のように捉えるので



す。教会は民の一部として彼らと共に歩き、彼らに尽くすべきです。

Pope Francis Message

Excerpt from "Living in the World of Corona" (15)  
Part 3: When to Act (3)

The "dignity of the people" that I speak of refers to the recognition that springs from the "soul" of the people and their view of the world. Where does it come from? Does it arise from the wealth of the people or from victory in war? Such achievements can become a breeding ground for pride. But even if they are poor, pitiful, and oppressed, their dignity comes from their intimacy with God. It is God's love and intimacy that brings dignity to the people, gives them hope and makes them stand up.

The Bible has recurring stories that show it. By calling on Moses, God showed His intimacy and promised eternal love. By giving revelation to Abraham, He promised to walk with His people. Realizing God's devotion, the Jewish people were able to move forward with an awareness of their dignity. As a result, it was possible to build a strong country and acquire a noble soul. But when Israel loses sight of that recognition and abandons the Lord's commandment, which is a sign of intimacy, they fall into division and injustice.

When St. Paul was asked to explain his faith in Jesus Christ, he spoke of the history of God's companionship with His people (Acts 13: 13~21).

Jesus is the Son of the history of grace, promises, and redemption of the Jewish people. It is the story of a people who realized their dignity and sought freedom because God appeared to them, approached them, and walked with them.

Jesus appeared to resurrect Israel and restore the promised dignity to His people.

Jesus restored the dignity of His people by expressing God's intimacy in action and words. You cannot be saved by yourself. Isolation is not part of our creed.

In other words, to be a Christian is to know that you are part of the people. If there is a role for the Church to play in times of crisis, it is to remind the people of their souls and the need to respect the common good. That was what Jesus did. Jesus came to strengthen and deepen the bond between the people, God, and each other. That is why the most important person in the kingdom of God is the one who humbles himself and serves others, especially the poor. (Matthew 20:26~27)

An unshakable axis for Christians is the mission called "kerrigma." This means that God loved me and offered Himself for me. The death and resurrection of Jesus Christ and the love shown on the cross have brought us together as missionaries. It made us realize that we are brothers and sisters in the human family, especially those who feel lonely. As shown in the Sermon on the Mount and in Matthew 25, the essence of salvation is filled by the compassion we show.

That is why the Church must always be with those who are fighting for dignity and freedom. We see the suffering and hopes of the people, especially the poor, in each culture as our own. The Church should walk with them and serve them as part of the people.

α - β - γ - θ - δ - ε - ω

第24回海の日コンサートが実施されました

コロナ禍のため長い期間開催を見合わせていた海の日コンサートが、さる7月16日に

4年ぶりに開催されました。

和泉市少年少女合唱団、の美しい合唱

ハーモニカ演奏の泉ハーモニックス、  
懐かしい歌のハーモニカによる演奏

ソプラノ独唱 渡辺優美子さん、素晴らしい歌声でのアヴェ・マリア

和泉教会信徒を中心とした

コーラスグループぶどうの木による合唱

プロのホルン奏者大西花奈さんと上原健史郎さんによる演奏、

ピアノ伴奏は五来ゆみさん

最後に観客も一緒に翼をくださいの大合唱で締めました。

当日はママの店も開催され、味しゅーキやデザートを出演者や観客皆で味わって  
いました。

○ = ● = △ = ▲ = ▼ = ◆ = □ = ■

\*お知らせ\*

8月からの掃除について

毎週聖堂と1Fホールの掃除をミサ前に実施していましたが、聖堂はミサ前の心の準備

のため静粛にしてほしいという要望が多数あったため、8月より以下のように変更いたします。

1Fホール：ミサ前9:00から9:20の間  
聖堂：ミサ終了後すぐ

= いずみブロック交流会のお知らせ =

今年度ブロック交流会を以下のように予定しています

日時:9月3日(日) インターナショナルミサ 9:30~

場所:浜寺教会(岸和田、和泉でミサに与ってからの参加も大丈夫)

昼食:11:00~ うどん、焼きそば、おにぎりなど

交流会:昼食後~

内容:フィリピンコミュニティーや多国籍グループのダンス、

コーラスグループぶどうの木、ピンゴ大会。

当日、岸和田、和泉の教会のミサは9:00からとなります、

お間違えの無いようにお願いします。皆様の参加をお待ちいたしています。

= Notice of Izumi Block Exchange Meeting =

We are planning to hold this year's block exchange meeting as follows.

- Date & Time: Sunday, September 3 International Mass 9:30~
- Location: Hamadera Church (Kishiwada and Izumi are welcome to participate after attending mass)
- Lunch: 11:00~ Udon, yakisoba noodles, onigiri, etc.
- Exchange party: After lunch~
- Content: Dance of Filipino communities and multinational groups, Chorus group Budounoki, bingo competition.

On the day of the event, the mass at the churches of Kishiwada and Izumi will be from 9:00.

8月主日ミサ予定	浜寺 9時30分	和泉 9時30分	岸和田 9時30分
6日 主の変容	アンツァネロ	村田	ジュアン
13日 年間第19主日	アンツァネロ 11:00ポルトガル語イッポリト	ジュアン	村田
20日 年間第20主日	ジュアン	村田 (インターナショナルミサ)	アンツァネロ
27日 年間第21主日	村田	アンツァネロ	ジュアン 11:00英語ジュアン

~8月の予定とお知らせ~

※講座「主日のミサの学び」・・・毎週主曜日14時30分(Sr.ルイザ担当) 8月はお休みです



- 4日(金)初金ミサ・・・9:30~ジュアン神父
- 6日(日)~15日(火)平和旬間
- 13日(日)平和祈願ミサ・・・平和旬間行事 DVD鑑賞、
- 15日(火)✠聖母の被昇天ミサ・・・9:00 ジュアン神父、スイカパーティー
- 20日(日)平和旬間行事・・・ぶどうの木の歌、絵本の読み聞かせ、ウクライナボランティア体験談
- 26日(土)ミサ・・・19:30 村田神父
- 27日(日)岸和田地区 youth 夏の会・・・9:30~泉佐野教会



8月の典礼 奉仕当番	先唱	朗読	共同祈願
6日(国際ミサ) 主の変容	瀬上 和昭	レイシエル 喜山章次郎	ロッチ 小野田 裕
13日(平和祈願ミサ) 年間第19主日	小野田 裕	渡辺ひろみ 西川 保彦	西川 愛日 小野田 裕
15日(火)9:00 聖母の被昇天	渡辺 直彦	古木 弘子 小山 範子	中原ミヨ子 喜山章次郎
20日(インターナショナルミサ) 年間第20主日	西川 保彦	未定	
27日 年間第21主日	渡辺 直彦	中原ミヨ子 西川 保彦	古木 弘子 堀川 学